

いのち
生命を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます

2013年
第59回

日本母親大会 in 東京

草の根の母親・女性の願いや要求を語り、あゆみつづけて59年
今年の夏、日本母親大会が東京でひらかれます
みんなでさそいあってあつまりましょう

第1日目



全体会 8月24日(土) 12時30分～17時

幕張メッセ・イベントホール (千葉市)

記念
講演

伊藤 真さん(伊藤塾塾長・弁護士)
「憲法のいきづく国に—
私たちに求められるものは」

第2日目

分科会 8月25日(日) 10時～15時

日比谷公会堂、都内大学(予定) 他

子どもと教育、くらし・権利・労働、平和と民主主義、女性の地位向上
めざしてなど、さまざまな問題をテーマ別に話し合います。



主催 ● 第59回日本母親大会実行委員会 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内(地下1F) TEL 03-3230-1836 FAX 03-3230-1837

開催 ● 東京母親大会実行委員会 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内(6F) TEL 03-3230-1734 FAX 03-3230-1653

協力 ● 関東ブロック各県母親大会実行委員会 (栃木・茨城・群馬・埼玉・千葉・神奈川・山梨)

母親が変われば社会が変わる！

母親運動のあゆみは日本の女性運動のあゆみです

母親大会のはじまり

一「日本婦人の訴え」から 世界母親大会開催へ

1954年、アメリカの水爆実験によってマグロ漁船員の久保山愛吉さんが亡くなりました。広島、長崎につぐ三度目の被爆に母親たちは怒り、平塚らいてうら5人は全世界にむけて「水爆禁止のための訴え」を送り、1955年スイスのローザンヌで世界母親大会の開催が決まりました。それに先立ち6月、第1回日本母親大会が東京で開かれ、日本各地の炭鉱や農村からも、1円募金などで送り出された2000人の母親が集まりました。世界大会には、河崎なつを団長にあらゆる分野から代表を選び、14人が参加しました。はばひろい母親運動の出発点です。

母親大会のあゆみ

一くらし・平和を守って たくさんの母親・女性たちが行動

帰国後の報告会は、全国各地で数千回開かれ、各地に母親運動が広がりました。そして母親・女性たちの願いをかかげ、子どもたちを小児マヒから守るための生ワクチンの緊急輸入、学校給食の脱脂粉乳を生乳に、ポストの数ほど保育所を、高校全入や私学助成などの教育問題、物価値上げ反対、地球環境・公害問題など母と子を取りまくさまざまな問題にとりくみ、貴重な成果をあげながら、58年余をあゆみつづけてきました。

世界母親大会によせられたギリシャの詩人ペリディス夫人の詩の一節「生命（いのち）を生みだす母親は 生命を育て 生命を守ることをのぞみます」は、今日まですべての母親・女性の心をとらえ、連帯のスローガンになっています。

東京にあつまりましょう

今年の開催地東京では、関東ブロック（栃木・茨城・群馬・埼玉・千葉・神奈川・山梨）の各県と一緒に全国のみなさんを迎えようと、全力で準備をすすめています。

1日目は47都道府県からの参加者が一堂に集まる全体会で、記念講演は伊藤塾・塾長で弁護士の伊藤真さんです。2日目はテーマに分かれての分科会です。

母親大会はだれでも参加できる大会です。厳しい情勢のときだからこそ、「集まれば元気、話し合えば勇氣」を合言葉に母親大会に集い、連帯をつよめ明るい未来をきりひらく力にしていきましょう。

8月、各分野の運動と憲法を守りいかにくみを草の根から大きくひろげ、東京で開催される第59回日本母親大会に、北から南から、世代をこえてさそいあい、よびかけあつてあつまりましょう。